

川内村赤十字奉仕団

川内村赤十字奉仕団					
2013年度					
実施日	参加人数	内容	会場	参加人数	
1 10月26日(日)	24	防災訓練	川内村 川内村の避難交流センター	460人	
2 12月17日(火)	8	お正月飾り作成	川内村 川内村の防災ボートセンター	15人	
2014年度					
実施日	参加人数	内容	会場	参加人数	
1 8月25日(水)	2人	餅つき会(餅つき)	川内村 川内村の防災ボートセンター	25人	
2 11月21日(金)	8人	フラワーアレンジメント教室	川内村 川内村の防災ボートセンター	15人	

[活動の実績はこちら](#)



★いつから活動されていますか？

- 震災時は婦人会として炊き出しを実施していた(3/11～14)。しかし、富岡町民の皆さんが急遽避難してきた。公民館などに約6,000人。川内村の人口はおよそ2,800人であったため、村民より避難してきた富岡町民の方が多かった事になる。
- 避難指示があり、村民は富岡町民の皆さんと一緒に避難した。

★対象はどちらの地域の方ですか？

- 川内村の村民仮設住宅は20km圏内の方が入居している。今年になり建設された災害公営住宅(25戸)へ移られ、14戸の入居がある。
- 川内村の仮設住宅(1か所)から災害公営住宅へ転居するのでお互い顔なじみが多い。幸せなケースである。
- 避難指示解除になり自宅に戻られた方もいる。11世帯19名ほどは自宅に戻られた。今はその方たちが心配。川内村は家々の間隔が非常に離れており、日中一人になる高齢者同士の安否確認が心配である。早くに帰村した方などからも同じような声を聞く。戻ってきているのは高齢者だけ。地域として見回っていかなければならない。
- 震災前は高校も浜通り(富岡、いわき)にあり、村内からも通学していた。近隣の町に仕事もあったが、震災後若い人たちが村を離れ生活の拠点を換え、高齢者だけが戻ってきているのが現状。高齢化にはいずれ向き合うことだと思っていたが、早まったと感じる。若い世代の生活圏が変わったので仕方ない、生活の基盤が出来るとなかなか戻ってきてくれないのかと感じる。



★どんな活動をされていますか？

- 川内復興祭があり、豚汁を作った。団員20～30名の参加があった(炊出し訓練の一環:2013年10月)。
- 仮設住宅であってもお正月飾りは欲しいだろうと、少しでも気分を味わえるように講師の先生を招いてお正月飾りを作った(2013年度)。2014年度からは民話とお茶会や交流会を実施、みんなに笑って貰いたかった。健康づくりレクリエーション、女性の参加者が多かったためフラワーアレンジメント教室を実施(11月頃はお花がなくなるので11月に開催)。団子刺し。

★活動を始める際、どこでだれと協議しましたか(どなたの発案ですか？)

- 川内村は婦人会の中の一つとして奉仕団がある。婦人消防隊、日赤奉仕団と一緒に活動している。婦人会のメンバーも帰村していない人も多く、帰村した少人数での活動をしてきた。婦人会をまとめようというのが最初の出だしだった。みなさん避難しているので、奉仕団までなかなか手が回らなかった。2013年度の総会での役員改正で今の団員が奉仕団となった。避難後に奉仕団になったので、本当に手探りでどんな活動をすればよいかもわからなかった。最初は赤十字の「ここに健康教室」をきっかけに活動開始した。その後日赤主催の住民交流会にお手伝いとして参加した。
- 社協と一緒に考え連携し、何ができるのかまた、何が喜ばれるのか助けて頂き活動している。
- 双葉ワールドなどで非常食の炊出し訓練を実施(社協)。アルファ米の勉強会のようになった(団員13名)。
- 婦人会と一緒に健康づくりレクリエーションや、フラワーアレンジメント

★被災された方々の声はどうでしたか？

- 川内復興祭の際、大鍋2つで豚汁を作ったが、空っぽになるぐらいまで食べていた。300～400食作り、参加者も約400名あった。久しぶりに故郷でみんなに逢えるという事もあって、皆さん大変喜んでいて、村に住んでいた方だけではなく、近隣に避難された方々も集まっての復興祭であり、大変盛り上がった。
- 生活の拠点が定まっていない。仮設住宅と村内の自宅を行ったり来たりしている方も多い。お互いにまわりの様子を伺い、方向性を決めようとしている。
- 現在は6割ぐらいが村内に生活の拠点をもっている。病気を持っている方は郡山などに避難し、なかなか帰れない話を伺う。
- いつも奉仕団活動に来てくれる人は同じになってきた。

★支援活動において良かったことは何かありますか？

- 支援活動は開始していたが、「今日は赤十字奉仕団だね」と言われた。住民の方からすればいろいろな団体が入るので自然に言葉が出たのだと思った。今までは意識していなかったが、名前が知られてきたのかなと感じた。最近は活動を始める際に、「赤十字奉仕団です」と話をするようにしている。
- 皆さんにリラックスして喜んでもらえたこと。民話などは面白おかしく話して頂き大変良かった。笑うことは健康にいいのだなと思った。

★大変だったこと・困ったこと等ありましたらお聞かせ下さい

- 色々な役員を兼務していることで情報が一本化されるのはよいが、赤十字としての活動がこんな感じの活動でよいものか心配。
- 団子刺し(飾り)に使用する木を震災以前は近隣の山より採っていたが、放射性物質を懸念し遠方(いわき)まで採取に行った事。村外より調達している。七夕の竹においても準備が大変である。個人的な考え方にはなってくるが、気にしている人がいるのではないかと気を使う。
- 男性の方が出てきてくれない

★今後の支援活動において何か新しい取組み等がありましたらお聞かせ下さい

- 救急法を実施予定。春に寄せ植えを予定していたが、出来なかったのもので秋の花の寄せ植えを開催予定(村内の仮設住宅の集会所)
- 11月になったら健康づくりのレクリエーション
- 炊き出し訓練、今年はカレーを作りたい。
- 年間を通して地域の見守りを実施している。震災後より婦人会と一緒に共同の事業として取組んでいる。近くにいるお年寄りを遠くから見守る。民生員も実施しているが、地域の婦人会、奉仕団としても各地区でも生活しながら見守る事にしていこう！何かあったら民生員に連絡するという連携をとりながら活動している。実際は団員も民生委員を兼ねている。
- 小正月行事の団子刺しを予定している(季節の行事を大事にしたい)